

## 福岡バイオ振興

# 10年の決算

福岡県がバイオ企業の集積をめざす「福岡バイオバレープロジェクト」の取り組みを始めてから今年で10年。欧州での販売にこぎ着けた薬品や国から先進的な医薬品として認められたがんワクチンなども現れた半面、優れた技術を持ちながら、その事業化に苦勞するベンチャー企業(VB)も少なくない。取り組みの成果と課題を検証する。

### 欧州で販売好調

創薬のバイオV、アキユメンバイオファーマ(福岡市)の鍵本忠尚社長に、オランダの提携先、眼科手術用医薬品大手のドルクから朗報が届いた。「販売は予想以上に

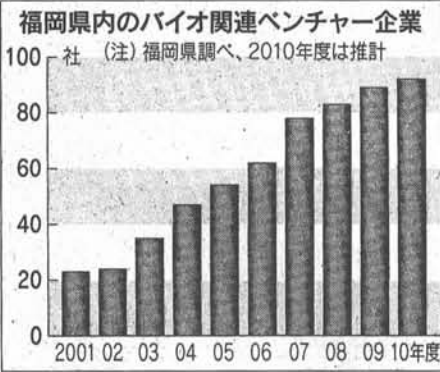
# 人・モノ投入 VB芽吹く

④

好調だ」アキユメンが開発、ドルクが昨秋から欧州各国で売り出した眼科手術用染色剤「BBG」。白内障の治療などで、無色の目薬の組織を染色して手術を容易にするための薬剤だ。染色力が高く薬の投与量が少なくて済むた

野に入れ、3年以内に60億〜100億円の売り上げを見込んでいる。自動車、半導体と並ぶ基礎産業の創出を狙い、福岡県がバイオクラスターの旗印を掲げたのは10年前。その間、国の産官学連携促進事業に採択されたこともあり、県内のバイオVBは10年度末に約90社と4倍に増えた。

## 事業化へのノウハウ提供



KRPPには多くのバイオVBが入居、支援を受けている(遺伝子解析のエコジェノミクス、福岡県久留米市)



め、既存薬に比べて視力低下などの副作用を抑えられるという。好調な販売を支えらる。その象徴的

約90社と4倍に増えた。県は人、モノ、金を積極的に投入。その象徴的

遺伝子解析を手掛けるJパワー子会社のエコジエノミクス(久留米市、草野輝彦社長)はKRPPに入居、支援を受けている企業のひとつ。昨秋から中国で感染症対策を管轄する中国疾病予防コントロールセンターアイエステイ(福岡県春日市、磯部信一郎社長)はコディネーター最大9万種の遺伝子を合成できる独自技術が評価され、中国から様々なチップ製造の依頼が舞い込

### 指南役が常駐

開発にあたっては、KRPPが低料金で貸し出ししている研究・試験設備を活用。「投資負担を最小限に抑えながら、最大の研究成果を出すことができた」(草野社長)という。KRPPの支援はハードだけにとどまらない。試験結果の解析手法などを指南する技術者を3人常駐。市場動向を見極めながら研究開発を手引きしたり、提携先を探したりするコディネーターやアドバイザーとして、大手製薬会社や金融機関の出身者6人を配置している。

アイエステイ(福岡県春日市、磯部信一郎社長)はコディネーター最大9万種の遺伝子を合成できる独自技術が評価され、中国から様々なチップ製造の依頼が舞い込

色素で判別する蛍光試薬。従来品に比べて光の強さを10倍に高める色素の化合物を開発した。市場分析をもとにした試験の収益見通しや販路開拓、特許出願の手続きなどで、コディネーターの助けを借りた。磯部社長は「支援がなければ倒産してもおかしくなかった」と振り返る。エコジエノミクスが現在、九州工業大と進めている解析精度を高めたチップの開発も、アイデアを持ち込んだのはコディネーターだった。「県の人的ネットワークはVBにとって心強い」。草野社長はこう評価する。ただ、研究開発結果の事業化を果たし、その果実を手にしたバイオVBはまだ一握りにとどまる。「今後も息の長い支援が欠かせない」(戸田順一郎、佐賀大学准教授)といえ、施策の持続力が問われそうだ。